

平成 24 年度岡山大学大学院社会文化科学研究科博士前期課程【9月募集】入学試験問題

講 座	法政理論、比較国際法政、 公共法政、司法政策、 地域公共政策コース
専門科目	行政法

問題1 Aは、自ら所有する土地につき、名義を無断借用してX名義で登記した上で、Bに売却した。税務署長Yは、登記簿の記載に依拠して、Xに対し本件土地の譲渡課税を行った。ところが、Xは不服申立期間内にはこれを争わず、その後になって課税処分の無効確認訴訟を提起し、本件土地の譲渡はXに無断でなされたもので、譲渡所得もXに帰属しないと主張した。しかし、このXの主張に対しては、課税処分は重大な瑕疵を有するとはいえ、その瑕疵は(一見して)明白でないとして、課税処分の無効を否定するものがある。

それでは、Xの主張を根拠づけるためには、どのような議論をすればよいのだろうか、答えなさい。

問題2 行政事件訴訟法9条1項の定める「法律上の利益」の理解に関しては、法律により保護された利益説(法的保護利益説)と裁判的保護に値する利益説の2つが有力な説として唱えられるが、2つの説のちがいを説明するとともに、それぞれの問題点を指摘しなさい。